

船舶事故等調査報告書

平成24年7月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012長第7号	
事故等種類	浸水	
発生日時	平成23年12月1日 11時30分ごろ	
発生場所	長崎県松浦市所在の電源開発松浦発電所沖 電源開発松浦発電所煙突から真方位350° 1.3海里付近 (概位 北緯33° 22.7' 東経129° 41.2')	
事故等調査の経過	平成24年1月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	貨物船 第十八住 <sup>すみほう</sup> 宝丸、199トン	
船舶番号、船舶所有者等	135254、有限会社井上海運	
乗組員等に関する情報	船長、三級海技士（航海） 機関長、五級海技士（機関）（機関限定）	
死傷者等	なし	
損傷	配電盤焼損	
事故等の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか2人が乗り組み、錨泊していた電源開発松浦発電所沖において入港準備作業中、平成23年12月1日11時30分ごろ主機を始動した際、船内電源が喪失した。</p> <p>本船は、機関長が機関室を点検したところ、床板直下まで浸水し、主機のフライホイールの半分が没水していた。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北東、風力 5、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1.0m</p>	
その他の事項	<p>本船は、石膏約700tを積載するため、電源開発松浦発電所岸壁に着岸予定であった。</p> <p>本船は、本事故後の調査の結果、乗船期間が1か月に満たない新人の機関員が、誤って機関室の二重底タンクトップに配管端が開放されているバラストポンプの危急ビルジ吸入弁を開放していたことが判明した。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、電源開発松浦発電所沖で入港準備作業中、配管端が機関室の二重底タンクトップに開放されているバラストポンプの危急ビルジ吸入弁が開放されていたことから、同弁から機関室に浸水したものと考えられる。</p> <p>本船は、主機を始動した際、フライホイールにより飛ばされた海水が、配電盤底の開口部から入り、気中遮断器に降りかかり、短絡を生じて焼損し、船内電源が喪失したものと考えられる。</p>

原因	本事故は、本船が、電源開発松浦発電所沖で入港準備作業中、配管端が機関室内に開放されている危急ビルジ吸入弁が開放されていたため、同弁から機関室に浸水したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 作業に不慣れな乗組員は、作業手順を確実に理解し、分からない作業を単独で行わないこと。</li><li>・ 機関室にビルジ高水位警報装置を設置することが望ましい。</li></ul>